

学校名

岐阜県立大垣桜高等学校

平成 28 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

CHANGE SAKURA

～技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト～

2. 研究の目的

(1) 服飾デザイン科

目指す生徒像として、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を育成するとともに、グローバルな視野からものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションを世界に発信することができる、ファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成する。

そのために、東海地区の地場産業である繊維産業が有する技術力、デザイン力の高さを再確認し、世界に誇れる技術や日本の文化を理解し、オリジナルテキスタイルの提案、修正・改善を繰り返すことで、ビジネスとしての繊維生産の在り方を調査研究する。また、その生地を使ったオリジナルデザインの洋服を提案、商品化し、地場産業の活性化を目指す。さらに、業界をリードする国内外の学校と連携し、最先端のファッションの動向を把握するとともに、国内外との遠隔交流などを通して、異文化理解や国際感覚を身に付け、豊かな語学力、コミュニケーション能力の育成を図る。このような取組を通して、ファッションに関する専門的知識・技術を習得し、新たなファッショントレンドを創造・発信する素養や表現力、探究心を身に付けた人材を育成する。

将来、ファッション界をリードする人材育成のために、多様な異文化を理解し、広い国際感覚を身に付け、以下に示す素養を有し、価値観の異なる人々と協働して仕事をする機会が増えることを想定したグローバルマインドを涵養する。

○ファッションビジネスリーダーとは

- ・ファッションビジネスにおける企画、生産、流通、販売などの各業務を理解し、総合的にファッションをマネジメントできる人材
- ・日本のファッションやデザイン、テキスタイルなどについての知的財産を理解し、産学官連携をとり、魅力あるデザインを創造する人材

○ファッションビジネスリーダーに必要な素養

- ・企画力 ・提案力 ・創造力 ・他者を理解する力 ・マネジメント力
- ・コミュニケーション能力 ・プレゼンテーション力
- ・ファッションに関する知識・技術

○グローバルファッションクリエイターとは

- ・地場産業や地元素材の魅力を理解し、高度な技術をもって商品化できる人材
- ・グローバルな視点で、ニーズに合わせたデザインクリエイトができる人材
- ・オリジナリティを基盤に、社会的な背景や最新の音楽・アートなど、世の中の動きを敏感に感じ、そこから得たものをデザインにとり入れ、新たなデザインを提案していける人材

○グローバルクリエイターに必要な素養

- ・ファッションに関する確かな知識・技術 ・豊かな感性 ・柔軟な発想力
- ・表現力 ・創造力 ・提案力 ・コミュニケーション能力
- ・他者を理解する力

(2) 食物科

目指す生徒像として、県立高校唯一の調理師養成施設としての食物科において、高度な調理知識・技術と豊かな感性を身に付け、食文化の伝承や、より良い暮らしを支え、「食」の企画・提案ができる「食」のフードクリエイターを育成する。

そのために、地域の関係機関や産業界と連携して、生産者・消費者の現状やニーズを調査・分析するとともに、地域に暮らす様々な人々との関わりを通して、地域の食文化への理解を深める。また、若い感性と柔軟な発想で地域農産物の特徴を生かしたオリジナルレシピや商品・サービスの開発、食生活の改善等の提案を行うなど実践的な活動を通して、地域の食文化の発展に寄与する態度を育成する。さらに、地域に暮らす外国人との共生、日本の食文化及び他国の食文化を理解する機会を通して、グローバルマインドを涵養し、関係機関との連携を図り、国際理解交流を進める。

○フードクリエイターとは

- ・地域の食生活、食材に興味・関心をもち、地域の食文化の理解を深め、地元に着目、敬意をもって、地元を活かした「食」の企画・提案ができる人材
- ・地域の伝統、文化、産業、産物を活かすため、そのルーツや特徴、課題等を追及し現在の価値観にとらわれずグローバルな視点から、新たな価値を見出すことのできる人材

○フードクリエイターに必要な要素

- ・探求心 ・行動力 ・コミュニケーション能力 ・創造力 ・提案力
- ・他者を理解する力（国際感覚） ・危機管理能力（衛生管理） ・食に関する知識・技術

3. 実施期間

契約日から平成29年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

服飾デザイン科

(1) 地元企業と関連機関とのコラボレーションによる商品開発

ア 研究のねらい

地場産業である繊維産業について再確認し、繊維が生地になるまでの生産工程を体験学習することで、地域産業の理解を深める。さらにファッション産業界について、強い興味関心をもつとともに将来、ファッション産業界に従事し、企画から生産、加工・流通・販売というファッション産業に関する総合的なマネジメント力と、創造性豊かなオリジナル作品の製作に意欲的な人材を育成する。

ファッションに関する学習については、従来の枠組みにとらわれない授業実践を展開する。

イ 具体的な事業内容

①岐阜県警察との連携による交通事故防止啓発反射材使用のファッション提案

社会の要望の情報を収集・分析し、ニーズや目的に合ったものを企画、提案する。ミーティングを繰り返し、商品化する。さらに、販売促進、販売方法を考える。

岐阜県警察主催の「交通弱者の交通安全意識の向上及び夜間の交通事故防止を図る運動のキャンペーン」に参加・協力し、反射材を衣服に取り入れたファッションの提案を行う。幅広い年齢層（幼児から高齢者まで）の、交通事故防止に関する取組をリサーチし、問題を把握するとともに、問題解決を目的としたファッションアイテムを企画、提案する。企画、提案の段階において岐阜県警察とミーティングを重ね、ニーズや要望を作品に生かす。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」において研究を位置付ける。実施内容は、5月オリジナルテキストスタイルの企画提案、6月から8月末オリジナルテキストスタイルの製造、9月からオリジナルデザインの洋服を製作する。

②長良川鵜飼装束の素材提案とアイテム提案

高校生による地方創生 岐阜の伝統文化「ぎふ長良川鵜飼」を全国、世界に発信する。岐阜の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を養うと共に、郷土の伝統や文化の伝承・発展に努める。

長良川鵜飼装束は、1300年続く長良川鵜飼の鵜匠が着用する装束で、長年にわたり装束の改良が進められた。現在、6人の鵜匠の体型に合わせた鵜飼漁に適する装束を身に付けている。また、平成26年3月、長良川鵜飼漁の技術が国の重要無形民俗文化財に指定され、鵜飼用具一式も国の重要有形民俗文化財に指定されているため、装束の改良を行うことは大変難しいことが分かった。そのため、岐阜市の伝統文化を理解し世界に発信するために、地元繊維企業と連携をとり、長良川鵜飼に関する鵜匠装束の生地の提案や、オリジナルアイテムを考案し作品を製作する。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」において研修を位置付ける。実施内容は、5月鵜飼装束の生地提案、6月から8月末オリジナルテキストスタイルの製造、9月からオリジナルアイテムの考

案、作品製作をする。

③オリジナルテキスタイルの企画・提案・製作

高校生による地方創生 地場産業開発素材を全国、世界へ発信。地場産業活性化へ東海地区の地場産業である繊維産業が有する技術力、デザイン力の高さを再確認し、世界に誇れる技術や日本の文化を理解するとともに、素材についての学習を深める。また、テキスタイル提案の一連の作業において、提案力、表現力を養い、商品化に向けた企画力、マネジメント力、コミュニケーション能力の育成を図る。

テキスタイルマテリアルセンターや、繊維製造工程の見学により、習得した知識を基に、オリジナルテキスタイルの企画・提案・製作を行う。コンセプトのプレゼンテーションを行い、繊維協会、企業などから改善点のアドバイスを受けるなどのミーティングを重ね、オリジナルテキスタイルを活用したデザイン考案し作品製作をする。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」において研修を位置付ける。実施内容は、5月オリジナルテキスタイルの企画提案、6月から8月末オリジナルテキスタイルの製造、9月からオリジナルデザインの洋服を製作する。

(2) 国際感覚とコミュニケーション能力の育成

ア 研究のねらい

国内外のファッション専門学校との遠隔交流、海外留学生との交流、ファッション学科以外の高校生との交流を通して、国や地域により着眼点や考え方、感じ方の違いを学習、異文化の理解を深め、国際感覚を養う。また、ビジネスシーンにおける実用的な英会話の力を身に付ける。

イ 具体的な事業内容

①海外のファッション専門学生や国内の他学科の専門高校生との遠隔授業による交流

地域の文化の違いについて、自身が暮らす地域の特色や理解を踏まえた上で、交流することにより、地域への理解や愛着、そして文化への尊重の気持ちを醸成する。

エスモードジャパン東京校に通う留学生とタブレット端末を活用して交流を行い、それぞれの国の異文化を理解する。この交流によって、世界を身近に感じるとともに、同世代の学生のファッションを学ぶ姿勢に刺激を受け、今後の学習への意欲向上を図る。また、国内外のファッションを学ぶ専門高校生との交流により、創作品に関する相互評価を実施し、デザイン発想の転換を図る。この交流によって、多方面から刺激を受け、視野を広げ、アイデアや発想力、プレゼンテーション力を向上させ、今後の作品製作の意欲向上と高度な技術の定着を図る。

☆タブレットを効果的に取り入れた学習方法の研究

- 1 国内外の学生との交流（対面式） → アプリケーションソフトの活用
- 2 リアルタイムでの情報交換（ダウンロードした画像やポートフォリオ課題の共有） → アプリケーションソフトの活用
- 3 ショー構成や音響の編集、活用 → アプリケーションソフトの活用

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」、「ファッションデザイン」、「服飾手芸」に位置付け、発展学習として実施する。

②語学力の育成

英語によるコミュニケーション能力の育成を目指し、ファッションに関する専門的な英単語を学び、実際の場面を想定したロールプレイングやペアワークを通して、ファッションビジネスで役立つ実用的な会話技術を身に付ける。本学科で学んだことを、海外に発信できるような語学力の育成を目指す。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「英語会話」、2年生科目「コミュニケーション英語」に位置付ける。

(3) 専門技術と独創性の育成

ア 研究のねらい

各種研修を通して、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を習得させる。また、将来ファッション関係の専門職に就くにあたり、求められる能力や資質を図る資格取得や技能試験及びファッションコンテストなどに挑戦させ、達成感や成就感をもたせる。

イ 具体的な事業内容

①各種研修

○東京研修

2, 3年生の希望者15人程度を対象に11月（1泊2日）に実施する。文化服装学院においてファッションショーを鑑賞し、卒業研究作品製作及び卒業研究作品発表会のショー構成を学習する。また、美術館やファッション関連の展覧会を鑑賞、表参道、渋谷、原宿、銀座などでマーケットリサーチして、ファッション感覚を磨くとともに、最新の情報を収集する。日暮里繊維街では素材のリサーチ、エスモードジャポン東京校においては、外国人留学生との交流を行い、ファッションの知識や技術の共通性に気付かせるとともに、発想やデザイン性の違いを認め合い、国際感覚を磨く機会を設定する。研修後は、報告会を実施し情報を共有することで作品製作に反映させる。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションデザイン」、「ファッションビジネス」、3年生科目「ファッションデザイン」、「ファッション造形」に位置付け、発展学習として実施する。

○京都研修

2年生を対象に2月に実施する。素材開発を行っている京都造形大学の卒業展を見学し、オリジナルテキスタイルの発想・製作方法を学ぶ。京都市街において、班毎にテーマを決めて伝統工芸体験やマーケットリサーチなどの研修計画を立て、京都研修を実施する。この研修では、長い歴史の中で、先人達が築いた日本独自の和の美しさを体感し、世界と比較しても比類なき美しく価値のある財産としての存在を再認識する。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションビジネス」「服飾手芸」に位置付け、オリジナルテキスタイル提案と、伝統工芸理解と文様、和模様の研究、マーケットリサーチを実施する。

○JAPAN YARN FAIR&総合展「THE尾州」の見学

2年生を対象に2月に実施する。一宮で行われるJAPAN YARN FAIR&総合展「THE尾州」の見学を通して、地元素材の良さを再確認し、それらを使用したオリジナルファッション開発への興味関心を高める。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションビジネス」、「ファッションデザイン」に位置付け、実践的な学習へ発展させる。

②資格取得への挑戦

一般財団法人日本ファッション教育振興協会主催の検定試験である以下の三つの検定に向けて取り組む。

○「ファッション色彩能力検定」

現在、同検定3級は1年次の1月に受検し、ほぼ100%合格している。一方2級は、2年次の7月に受検するが、合格率は50%程度に留まっている。同検定取得者は、アパレル販売職には有用であり、企業からの要望も強い。また、専門学校へ進学後、さらに上位級を目指す生徒が多い。色彩は視覚的に学ぶ要素が大きく、合格率を高めるためには、カラー教材を多く導入し、効率よく学習させる必要がある。合格率80%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションデザイン」において位置付け、進路実現を目指す。

○「ファッション販売能力検定」

同検定は、ファッション商品販売の仕事に携わる場合に必要とされる基本的なファッション商品知識、販売知識、接客技術、マーケティング、VMDなどの知識を問う検定である。

平成27年度は、3年生の希望者が9月に「ファッションビジネス能力検定」を受検し、合格率は80%であった。本校生徒の進路実態に直結することを考えると、ファッション販売能力検定3級を受験することが必要であると考えられる。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「選択ファッションビジネス」において位置付け、進路実現を目指した資格取得を実現する。

○「パターンメイキング技術検定」

同検定は、3年生の希望者が受検しており、一次試験（理論と製図）の合格率は70%であり、二次試験（実技）は、経験値が必要となり容易ではないが、現在は50%に留まっている。特に、実技試験においては、夏期休業中に特別授業を実施し、業界での勤務経験のある服飾系の専門学校の講師による講習を受講している。最終合格率70%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「選択ファッションデザイン」において位置付け、進路実現を目指した資格取得を実現する。

③各種コンテストに挑戦

例年多くのコンテストに応募し、最終審査に参加する中で得たコンテスト毎の傾向などの情報を共有し、デザイン発想、製作指導に当たっている。また、デザインの工夫だけでなく、テキスタイルから創作した作品が高評価されるため、素材の知識や工芸技法の応用力が必要となる。多くのコンテストの最終審査会やプロデザイナーの作品を鑑賞させる機会を設けることで感性を磨き、さらに、伝統工芸などの専門家から技術を学び、作品に応用する力を身に付けさせる。また、ファッションのみにとらわれることなく、多くの美術作品や研修で訪れる各地の景観を鑑賞させることも、豊かなデザイン発想力や、素材開発力に繋がり、さらにポートフォリオ作成などを通して導き、コンテスト入賞実績をあげる。

食物科

(1) 地域の関係機関や産業界と連携した「食」の研究・提案

ア 研究のねらい

岐阜県産食材、地域食材について研究を行い、食材を学び、多様な消費者のニーズに対応するために、地域の関係機関や大学、企業から指導助言を受けながら新たな商品・サービス開発、レシピの提案を行う。

イ 具体的な事業内容

①地産地消の推進に向けた地域食材活用の提案

岐阜県産食材、地域食材の品種や特徴を調査・研究し、その特徴を生かした料理を提案する。西美濃農業協同組合と連携を図り、にしみのブランド野菜、地域食材を活用して、地域の食生活を支える地産地消による献立と料理を地域市民に広く提供する。

レストラン実習では、地産地消を推進する料理を提供する。また、家庭でも作りやすいようにレシピを提供する。さらに、情報通信機器を使い、動画等を取り入れて広く普及を図る。

また、今年度提案した「地元企業・関係機関とのコラボレーションによる取組」で行ったレシピ提案（養老サービスエリアの新メニュー）のマーケットリサーチを行い、生産者、消費者のニーズや地域性、地域の食文化の伝承を取り入れた提案を行う。

また、岐阜県農政部農産物流通課と連携し、世界農業遺産である清流長良川の「鮎」や伝統野菜の研究を行い、地域の食文化の伝承や普及活動を行う。また、食文化の歴史変遷を学び、地域食材を活用した和食「和桜 WAZAKURA」を国内外に発信するなど、食産業界のニーズを反映させた「食」に関するプロジェクトの企画・提案・実践を行う。

日本の和食文化の良さを広くPRし、地域の食文化をの発展に寄与する取組を行う。

②岐阜女子大学との連携

米「ハツシモ」の味や粘性、調理性、栄養面などを科学的に分析し、その特徴を生かした焼き菓子のレシピを作り、地域食材の利用や消費の拡大に貢献する。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「栄養」、「調理」、3年生科目「調理」、「課題研究」において研修を位置付ける。

(2) 勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成

ア 研究のねらい

現在、食産業界で活躍している専門家の講演会や講習会、現場実習を通して、勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。

イ 具体的な事業内容

①食産業界で活躍している専門家の講演会・講習会の実施（年8回）

食産業界で活躍している専門家の講演や講習会を通して、ものづくりや食に対する情熱、現在の活躍に至るまでの体験談等を通して、生徒自身の未来像を具体化させ、学習意欲の向上を図る。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「生活産業基礎」、2年生科目「家庭総合」、3年生科目「課題研究」において研修を位置付ける。

②インターンシップの実施

2年次の8月、3年次の6月に各5日間インターンシップを実施する。インターンシップを通して、食産業界に対する正しい理解と関心を深め、望ましい勤労観、職業観を身に付ける。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「家庭総合」、3年生科目「調理」、「公衆衛生」、「食品衛生」に位置付け

3年生はホテルと学校給食等の集団調理施設や専門料理店において調理師として専門性の高い調理現場での実習を通して、調理師としての専門的知識・技術、実践的な危機管理能力を育成する。2年生は地域の「食」に関連する現場で実習を行い、地域の「食」に関わる産業界、食文化を体験しながら理解を深める。高校生目線で新しい価値、課題を見つけ解決していく力を育成する。

③ 模擬経営実習

大垣市内のレストランや地域の販売店において、月に1回（週末）に、生徒がオーナーシェフや厨房スタッフ、ホールスタッフとして販売実習を行う。消費者のニーズや地産地消による献立を作成し、調理、サービス、衛生管理など調理師としての業務全般を体験する。生徒主体によるレストラン運営により、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決することができる調理師としての資質と能力を育成する。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「調理」、「公衆衛生」、「食品衛生」に位置付ける。

④語学力の育成

英会話によるコミュニケーション力の育成を目指し、食に関する専門的英単語を習得し、実際の場面を想定したロールプレイングやペアワークを通して、食産業界で役立つ実用的な会話技術を身に付ける。本学科で学んだことを、国際交流や国外への発信に活用できる語学力を育成する。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「英語会話」、2年生科目「コミュニケーション英語」に位置付ける。

(3) 高度な調理技術と幅広い知識を身に付けた人材の育成

ア 研究のねらい

専門学校や高等学校、岐阜県調理師連合との連携を通して、高度な技術を身に付け、豊かな感性や幅広い知識、創造力を磨く。また、各種コンクールに挑戦し、外部の評価を受け、達成感や成就感をもたせ、学習意欲の向上を図る。

イ 具体的な事業内容

① 調理系専門学校「辻調理師専門学校」との連携

プロの世界で通用する技術力を育てる専門学校の技術指導を受講し、高度な知識と技術を体得し、創造力を磨く。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」において、それぞれの技能に合わせ、技術向上、発展的な取組として行う。

②「岐阜県調理師連合会」との連携

岐阜県の調理師の資質向上を目指して、技術コンクールや料理講習会を開催している岐阜県調理師連合会と連携し、職場で求められる調理師の資質、考え方、知識や技術、調理師として働くことの魅力や生きがいについて話を聞く。地域の食生活を支える地産食材を利用した和食の調理技術を習得し、地域の食文化の発展に寄与し、食産業界で活躍できる調理師を目指す。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」に位置付け、それぞれの学習内容に合わせ、技術向上のための取組を行う。

③全国レベルのコンテストに挑戦

多くのコンテストに応募・参加し、日常の学習活動を通して習得した知識・技術をさらに高め応用力を身に付ける。魅力ある料理の演出など、食空間の演出や料理を美味しく表現するフードクリエイターを育成する。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」に位置付け、発展学習として行う。

【効果測定について】（服飾デザイン科、食物科共通）

①資格取得・技能試験、コンテスト等への入賞結果等による測定（定量的評価）

知識・技術を習得したかどうかの客観的な指標として、各種検定試験や技能試験等の取得が挙げられる。資格・検定の取得は、生徒の学習意欲を高めるとともに、日ごろの専門的学習到達度の客観的評価を得る手段として、また、将来の職業に求められる能力や資質として直接的に結びつく有効な手段でもある。また、各種コンクール等への参加を通して現在の取組を外部評価することも、生徒のモチベーションを上げ、参加までの取組過程で、様々な課題と向き合い、課題解決に意欲を示す取組となる。

本事業による評価としては、下記のような評価方法を考えている。

<両学科共通>

- ・企業連携による商品開発
- ・全国規模の各種コンクールにおける入賞数増加

<服飾デザイン科>

- ・ファッション色彩能力検定 2級合格
- ・ファッション販売能力検定 3級合格
- ・パターンメイキング技術検定 3級合格

<食物科>

- ・調理師 資格取得
- ・技術考査（専門調理師筆記試験に相当） 合格
- ・食物・調理技術検定 1級合格

②アンケート調査等による測定（定性的評価）

教育課程の科目に位置付けたそれぞれの事業の取組に対して、職業人として育成すべき必要な能力の洗い出しを行い、その具体的な評価方法を授業実践の中で段階的に研究を進める。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」など、これまで比較的、評価が困難であった項目においても、適正に評価する方法を模索するとともに、目標に準拠した評価の確立を目指す。また、専門的な知識・技術の習得過程である学習活動において、生徒の自己評価や他者評価、教員同士の評価、大学教授、企業関係者等の有識者による外部評価等、様々な評価手法を活用し、生徒を多面的に捉え、分析的に評価する。具体的には、事業プログラムに取り組む前後で、生徒がどのように変容したのかを、授業者による生徒評価、専門家による生徒評価、生徒による自己評価などのアンケート調査及び診断を実施する。

生徒の変容について次の観点について評価する。

ア) 関連産業への関心の変容について

高校卒業後の進路意識や地域経済・中小企業への関心等をアンケート調査する。

イ) 社会人基礎力の伸長について

経済産業省が社会人基礎力として定義づけている、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）の各要素の伸長度を「社会人基礎力診断」を行い、能力要素ごとに点数化する。

ウ) 多様な学習評価法の研究

パフォーマンス課題ごとに段階的な評価をするためのルーブリック評価基準を設定し評価する。評価の観点を可視化させ、具体的な褒めポイントを明確にすることで、教員は生徒自身が自分の成長記録を把握し、生徒への指導助言に繋げるとともに、生徒の学習意欲の向上に繋げる。ポートフォリオでの自己表現も取り入れ、個々の学びの振り返りを行い、各々の課題を明確にする。

【研究成果の普及】（両学科共通）

中学生や保護者に対して、専門高校と専門学科に関する理解を深めるために、ホームページや新聞、情報誌などを活用して情報発信する。また、学校説明会や高校体験入学等の機会に、SPH事業の取組を紹介し、専門高校と専門学科の学びの魅力を伝える。

卒業研究作品発表会を通して、学校関係者及び保護者、地域の方に研究成果を発表する。また、研究過程や成果を、随時、学校ホームページに掲載、県内専門高校の学科主任が一堂に集う高等学校職業教育関係学科主任等連絡協議会で発表するなど、研究成果の普及を図る。

また、全国高等学校長協会家庭部会被服・服飾デザイン系高等学校長会総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会や全国高等学校長協会家庭部会食物系高等学校長会総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会において、研究課程や成果、課題を発表し、先進的な取組を発信する。さらに、独立行政法人教員研修センター委託全国高等学校長協会家庭部会が主催する産業・情報技術等指導者養成研修での発表機会を検討するなど、全国公立私立高等学校家庭科教員へ普及を図る。

【スーパーハイスクールの連携】

①事業概要

本県には、現在SGH、SSH、SPHがそれぞれ2校ずつあり、SGHはグローバル人材育成を図ることを目的として、海外フィールドワーク等を通して、グローバルな社会課題の解決策を発見し、英語の論文にまとめる取組を実施している。SSHでは、科学技術人材の育成を図ることを目的として、最先端の科学技術に触れて、論文を作成することで、科学的な思考力を身に付ける取組を実施している。これまで、これらの研究指定校が一堂に会して連携や協働した取組をすることはなかったが、スーパーハイスクールの生徒たちが互いに刺激し合い、見識を広め、各々の特色を生かした連携を行うことによる教育効果は高いと期待できる。また、連携した取組を実施することで、県内の高等学校の自校の取組の一層の推進に資する機会を設定する。さらに、研究成果を発表する場を設けることにより、各校生徒のモチベーションの向上に繋がるとともに、参加校へも課題研究の効果が示され、県内高校への普及を促進することが期待できる。その他にスーパーハイスクールセッションの連携の在り方や促進方法を協議するための連携推進協議会を設置する。

②実施時期及び期間

ア) スーパーハイスクールセッション

SGH、SSH、SPHから意欲のある生徒たちが集まり、互いの研究成果を生かして

連携し、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな事業展開につなげられる取組を実施する。

例えば、バイオテクノロジーを活用した商品開発と販売やオリジナル商品の海外展開を考えるなど、各校の取組の成果と課題について、それぞれの観点から解決方法を協議する研究の機会となる。

イ) スーパーハイスクール プレゼンテーションコンテスト

SGH、SSH、SPHの高校生の語学力と表現力を高め、論理的な思考力や課題発見・解決能力を養い、地域や海外で活躍する人材を育成するため、課題研究の成果を発表するコンテストを開催する。

- ・各校でプレゼン大会を開催（12月） 各校上位2グループが県大会へ出場
- ・県プレゼンテーション大会（1月） 岐阜県図書館にて開催
各校代表2グループ 計12グループの発表 大学教授による口頭試問

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
渡辺 美智子	校長	企画運営：家庭
猿井 久美子	教頭	企画運営：家庭
柴田 幸美	教諭	研究推進担当：家庭(家庭部長・服飾デザイン科長)
高橋 路子	教諭	研究推進担当：家庭（食物科長）
後藤さとみ	教諭	教育課程：家庭（教務主任）
瀬下 裕基	教諭	研究推進・広報・経理担当：家庭（服飾デザイン科）
澤田 尚子	教諭	研究推進担当：家庭（服飾デザイン科）
各務 こづえ	教諭	研究推進担当：家庭（服飾デザイン科）
河村 素子	教諭	研究推進・広報・経理担当：家庭（食物科）
坂 美里	教諭	研究推進担当：家庭（食物科）
高木 ゆか	教諭	研究推進担当：家庭（食物科）
郷 絵美	教諭	研究担当：家庭（生活文化科長）
宮田 慶美	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
増田 恵子	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
酒井 美也	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
新川 幸子	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
西尾 歩美	教諭	研究・広報担当：家庭（生活文化科）
岡田 浩一	教諭	国際交流担当：社会
木村 謙司	教諭	国際交流担当：社会
福島 洋之	教諭	国際交流・英会話担当：英語
山田 智子	教諭	国際交流・英会話担当：英語
豊田 治彦	教諭	国際交流・英会話担当：英語

奥田 昌興	教 諭	情報配信：数学
松本 真美	講師実習助手	経理文書担当
鳥居 さやか	講師実習助手	経理文書担当

(2) 運営推進委員

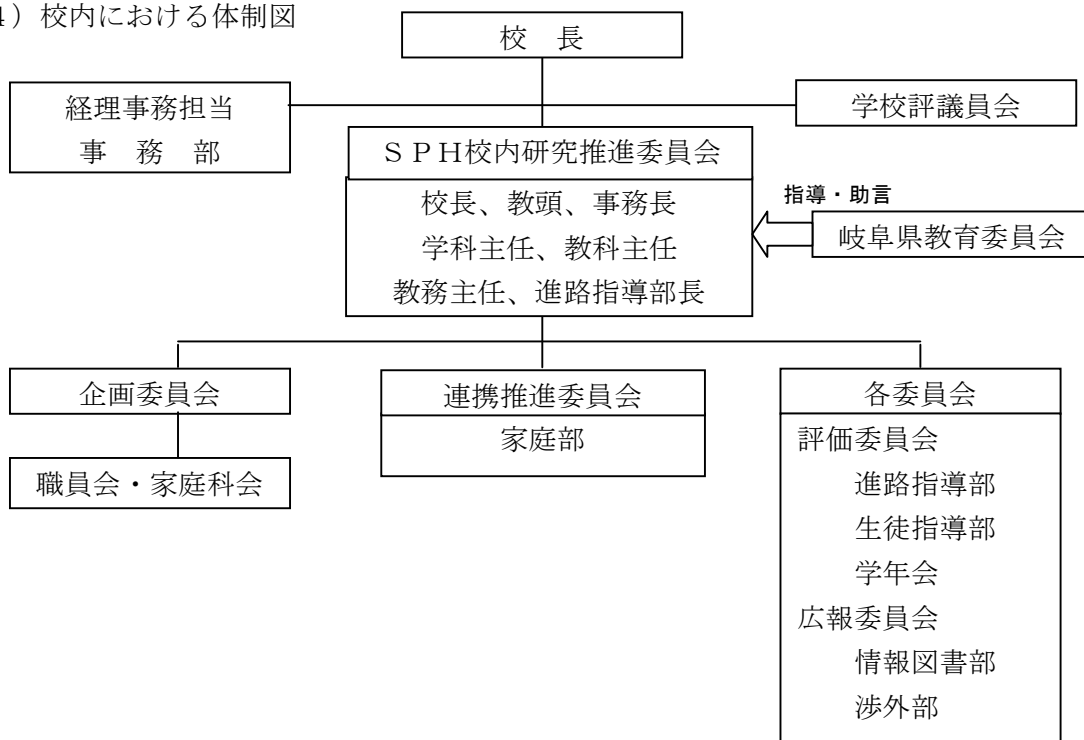
氏 名	所属・職名	
吉田 光孝	名古屋モード学園	統括責任者
柴田 英貴	名古屋モード学園	管理部主任
岡本 雅彦	岐阜県繊維協会	事務局
斎藤 哲	辻調理師専門学校	入学広報部 渉外・海外募集担当部長
岡島 卓巳	辻調理師専門学校	入学広報部 部長
吉川 俊行	岐阜県調理師連合会	会長
福手 恭子	岐阜県農政部	農産物流通課 課長
深尾 勝	岐阜県商工労働部	地域産業課 課長
安田 ゆかり	岐阜県教育委員会	学校支援課 指導主事

(3) 研究推進委員

氏 名	所属・職名	役割・専門分野等
渡辺 美智子	県立大垣桜高等学校 校長	企画・運営
猿井 久美子	同上 教頭	企画・運営
清水 正義	同上 事務長	企画・運営・経理
後藤 さとみ	同上 教務主任	企画・運営
福島 洋之	同上 進路指導部長	企画・運営
宮田 慶美	同上 生徒指導部長	企画・運営
近藤 好弘	同上 特別活動部長	部活動企画・調整
柴田 幸美	同上 服飾デザイン科長	研究推進責任者
高橋 路子	同上 食物科長	研究推進副責任者
郷 絵美	同上 生活文化科長	研究推進副責任者
岡田 浩一	同上 社会科主任	国際交流
山田 智子	同上 英語科主任	国際交流・英会話指導
豊田 治彦	同上 英語科教諭	国際交流・英会話指導
吉田 光孝	名古屋モード学園 統括責任者	指導助言：ファッションに関する学習
高橋 真弓	E S M O D T O K Y O 事務局コーディネーター	指導助言：国際交流コーディネート
安江 貞人	岐阜県警察本部 交通部 交通企画課 課長補佐 警部	指導助言：交通安全に関するアイテム 開発指導
杉山 雅彦	長良川鵜匠	指導助言：長良川鵜飼 P R アイテム 開発指導助言

足立 聖	有限会社 カナーレ	指導助言：テキスタイル開発指導
水野 幸子	岐阜女子大学 長寿健康栄養センター長	指導助言：「食」の研究・提案
中畑 千弘	朝日大学 マーケティング研究所 経営学部部ジネス企画学科 所長 教授	指導助言：商品開発 指導
片山 耕一郎	辻調理師専門学校 西洋料理教授	指導助言：専門調理技術
今井 典俊	J Aにしみの 営農販売部 販売課主任	指導助言：地域食材
河尻 克晴	岐阜県農政部 農産物流通課 地産地消係長	指導助言：地域産業連携

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期 服飾デザイン科

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)地元企業・関係機関とのコラボレーション (1)－① 岐阜県警察との連携によるセーフティーファッション提案	岐阜県警による講習会	調査・分析 アイテム企画・提案	警察とのミーティング	アイテム作品製作		作品PR調査・分析	アイテム作品の改良・製作		SPH 報告会 運営指導委員会	卒業研 究作品 発表会 の場 での成 果発 表	普及, PR活動	
	(1)－② 長良川鵜飼に関するアイテムの提案	関係機 関との ミーテ ィング	関係機 関との ミーテ ィング	アイテム作品製作		作品PR 調査・分 析	アイテム作品の 改良・製作					
	(1)－③ オリジナルテキスタイルの企画・提案・製造	テーマ 設定 コンセ プト提 案	関係機 関との 企画会 議	企業と のミー ティン グ	テキス タイル の製造	企業と のミー ティ ング	テキスタ イルの製 造	アイテム作品・衣 装製作				
(2)国際感覚とコミュニケーション能力の育成 (2)－① 海外の学生と国内の専門高校生との交流			海外の 学生及 び留学 生との 異文化 交流			タブレットによる遠隔交流			卒業作品 発表会 でのプレ ゼンテー ション	成果発 表会の 見学		
	(2)－② 語学力の育成	英会話（国際交流における実践的な語学力の習得 123年生の授業で位置付け）										
(3)専門技術と独創性の育成 (3)－① 各種研修							美術館・ アパレル 企業見学 (1年)	東京研修 (2,3年)			京都研 修(2年) JAPAN YARN FAIR 見 学(2年)	
	(3)－② 資格取得への挑戦	ファッション色彩能力検定2級 ファッションビジネス検定3級 パターンメイキング検定3級 ファッション色彩能力検定3級										
	(3)－③ コンテスト挑戦	各種コンテストへの応募・製作										

食物科

研究内容	実施時期													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
(1)地域の関係機関や産業界との連携した「食」の研究 ・提案 (1)-① 地産地消の推進に向けた地域食材活用の提案 ・岐阜県産食材 ・地域産食材 (1)-② 岐阜女子大学との連携 米「ハツシモ」の米粉研究	テーマ設定 コンセプト提案	レストラン実習 関係機関とのミーティング	→	レシピ開発	関係機関とのミーティング	関係機関とのミーティング	レストラン実習	→	→	レストラン実習 S P H 報 告 会 運 営	卒業研究作品発表会 の場での成果発表			
	関係機関とのミーティング		地域食文化研究会	関係機関とのミーティング	共同実習	食材研究 作品評価会	商品の改良 作品評価会	→	→	→	商品提案			
(2)勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション力の育成 (2)-① 食産業界で活躍している専門家の講演会、講習会 (2)-② インターンシップの実施 (2)-③ 模擬経営実習 (2)-④ 語学力の育成		関係機関とのミーティング	専門家講習会	関係機関とのミーティング	専門家講習会	関係機関とのミーティング	専門家講習会			指導委員会	専門家講習会	成果発表会の見学		
		関係機関とのミーティング	インターンシップ(2,3年)	関係機関とのミーティング	インターンシップ(2,3年)									
		関係機関とのミーティング	レストラン実習											
	英会話（国際交流における実践的な語学力の習得 1 2 3 年生の授業で位置付け）													
(3)高度な調理技術と幅広い知識を身に付けた人材の育成 (3)-① 調理系専門学校との連携 (3)-② 「岐阜県調理師連合会」との連携 (3)-③ コンテストに挑戦		辻調理師専門学校授業		辻調理師専門学校授業			辻調理師専門学校授業				辻調理師専門学校授業			
			実技指導		実技指導		実技指導 作品発表		実技指導					
	食物調理技術検定2級						食物調理技術検定1級 各種コンテストに挑戦							

※ 実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
なし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 無

※有の場合、別紙様式7に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載